

「平和ボケ」と言う言葉を

耳にしました。戒めを込めた言葉に違いありませんが、一方で「平和ボケで何が悪い。」と反発したくなります。

ロシア・ウクライナ間の武力を用いた他国への侵攻は、まさに「戦争」です。人間は第二次大戦を最後に、人として最も愚かな「戦争」を二度と起こさないと学んだはずではなかったのか。当事者は必ず自分の正当性を主張し、自らを正義に奮い立たせて銃口を人に向けています。

しかし、もはやそれは正義ではありません。人が人を傷つける行為は、すべての正義を打ち消す愚かな行為です。

教育はこの愚かさを77年に渡って子どもたちに伝え続けてきました。この営みさえも踏みにじるような今回の事態は決して許せません。「ボケるほどの平和」子どもたちにはそれでいい。

## 季節の巡りを迎えて

一月から第6波に備えて体制の強化を図りましたが、予想を上回る感染の拡大と子どもたちへの拡がりに緊張が解けないまま三月を迎えました。

毎年のことながら「もう一年経ったのか。」と自分の感覚と時計の進む速さのギャップに年齢を重ねる自分を意識せずにはいられません。

分かってはいるのです。目にも見えていました。

梅の花はいつの間にか各地で満開になりました。毎年、校長室の軒下に巣を作りに来る「ハクセキレイ」が偵察にやってきています。卒業式、入学式の鉢花たちはビニルハウスや教室の前で「いつでもいいよ」と言わんばかりに花をたくさん咲かせています。

本年度の終わりを告げる三月は確実にやってきました。ただ、心の準備が追いついていないだけなのです。

では、心の準備のために、本年度を振り返りましょう。

今年は「みんなで作る みんなの南小学校」をスローガンに掲げました。昨年から続いたコロナ禍は、みんながひとつにならなければならなかった。子どもたちの教育を支える学校づくりの大切さを大人達に気付かせてくれました。一方で子どもたちは、学校での新しい生活様式を実行し、がまんしながら校内での感染をくい止めてくれました。

さらに、保護者や地域の方々の協力で、これまでにない教育活動が展開されました。

四月には、オリンピック聖火ランナーとなった元南小学校長の福留先生が、子どもたちの夢や願いを本物の聖火とともに会場へ届けてくれました。

十月には南小まつりを実施できました。講師を努めていた地帯の方々の理解が実現できたものです。

加えて、5・6年生は小林駅でのコンサートとラジオ出演。忘れられない体験をさせていただきました。

十一月。6年生の思い出づくりの熱気球体験が今年も行われました。グランド上空に気球が上がる風景は、まさに保護者と地域が支えてくれる南小学校の姿を象徴しています。校長室に飾ったパネル「運動場に気球が上がる学校」はその意味を表しています。

主役の子どもたちの活躍もめざましかった一年でした。

作文や絵、ポスター等で市、県、全国の表彰を受けた子どもは、のべ50人以上。市では市長賞、教育長賞をいただくなど上位の成績が多かった年でした。また、新聞の作文掲載者は、35名(3月11日現在)となり、昨年度と同人数です。

「みんなの南小」を実現していただいた保護者、地域の方々、そして、がんばった子どもたちに感謝、感謝です。

**ありがとうございました**

この「校長通信」は、回覧板を通して地域の皆さんにも読んでいただいております。各区の皆様には大変お手数をお掛けしております。

この一年間も誠にありがとうございました。

# うれしいお知らせ

## 「学校賞をいただきました」

小学生から一般までを対象に、ひとつのテーマにそった作文を全国から募集する作文コンクール「言の葉大賞」（一般社団法人「言の葉協会」）が今年も開催されました。第12回を迎えた今年のテーマは「道」。

夏休み前に4年生以上に呼びかけたところ、7名の児童が応募してくれました。審査の結果、南小学校が「学校賞」を受賞しました。（小学校の部は全国からほか13校が受賞。「言の葉大賞」のホームページで紹介されています。）

自分の思いや経験を子どもらしい言葉で素直に表現する力が育ってくれていることを大変うれしく思います。

### 【応募してくれた児童】

6年	尾山 歩さん	園田 真彩さん	
5年	若松 愛華さん	後藤 はるのさん	池田 愛佳さん
4年	宮毛 環菜さん	岡村 こはゆさん	

